

FOYER



全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」 制作記者会見レポート

Special feature 特別対談
熊本県知事 木村 敬 × 熊本県立劇場館長 姜 尚中

information

全国共同制作オペラ『ラ・ボエーム』



■熊本公演

2024年10月19日(土) 熊本県立劇場 演劇ホール
開演 13:15 開場 14:00
S席 ¥12,000、A席 ¥10,000、B席 ¥8,000、C席 ¥6,000
※障がい者等割引・U25割引、各 ¥3,000引
※障がい者等割引・車いす席の取り扱いは熊本県立劇場プレイガイドのみ
本事業では子ども50名への無料招待を実施します。
詳細は熊本県立劇場オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

全国共同制作オペラとは？

全国の劇場・音楽堂、芸術団体が連携し、単館ではなし得ない、
独創的かつ高いレベルのオペラを新演出で制作するプロジェクトです。
熊本県立劇場はこれまでに
井上道義指揮・野田秀樹演出『フィガロの結婚〜庭師は見た〜!』
井上道義指揮・森山開次演出『ドン・ジョヴァンニ』
鈴木優人指揮・岡田利規演出『夕鶴』の3作品に参画してきました。

■特設サイトはこちら



 熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

最期 愛で 後

全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」 制作記者会見レポート

2024年4月11日木曜日。
全国共同制作オペラブッチーニ歌劇「ラ・ボエーム」の制作記者会見を、千種楽の地となるミューザ川崎シンフォニーホールで実施しました。
2024年末で指揮活動引退を表明している井上道義が「最愛」にして「最後」のオペラ制作に際し語ったこと。
2019年の全国共同制作オペラ「ドン・ジョヴァンニ」でオペラ初演出を成功させ、井上と再びオペラでタッグを組む森山開次の演出プラン。そして登壇した歌手4人の意気込みを紹介します。



会場には初公開の舞台美術や芸術家たちの衣裳案も
メインビジュアルほか、模型や衣裳画は森山開次によるもの



演出・指揮 森山 開次

指揮 井上 道義

井上 感無量という言葉を使いたい。人間はやっぱり年を取るとダメになる。心温かい人たちはそれを枯れた芸術だとか言うけれど、僕はそういうのを14歳のころから疑っている。やっぱり音楽っていうのは青春の息吹きて、言葉を変えて言えば、生きていく喜びの発露。「ラ・ボエーム」を選んだのは、青春に戻りたいという憧れです。自分の今持っていないものへの。

僕は音楽家になりたいと思って指揮者になったわけじゃなくて、舞台で一生を終えたいと思った。世の中は虚偽に満ちているか

ら、だったら思いっきり嘘ついて死んでやろうと、思いっきり素晴らしい嘘を舞台で作りたいいなと思っただけです。
今年でやめるのが嬉しくてしょうがない。人間は自分でやめるのを決めていいはずだし、皆さんも自分はもうやめてやめようかということはきくと考えていると思うから、それのいい例にしたいなと思っただけです。

この全国共同制作オペラプロジェクトもここまで広がってきて、これからもどんどん広がっていく。次の人がきつと継いでくれると思う。

森山 このお話をいただいたのは2年ぐらい前になります。そしてちょうど1年前の昨年4月11日、オーディションで歌手の皆さんと出会った。これから作品を創作していく時間がいよいよ入ってきます。7都市7劇場と、各地の合唱、オーケストラ、スタッフの皆さん。この「ラ・ボエーム」にどれほどの人が関わるか。それを私が先導しながら、井上さんと新しい創作の旅に出られることを本当に嬉しく思っています。

演出のことを少しだけ。まず僕は舞踊家なので、この作品でどういう身体表現ができるだろう

かということを考えています。ただ、無理にダンスを入れたりする必要はなく、歌手の皆さんのたずまいや仕草というところにも身体表現があると思っています。みんなの歌とともに、躍動する身体を届けられるような演出に努めたい。また、ダンサーも4人入ってきます。ダンサーたちも、屋根裏部屋で生活する芸術家の一員のように思っていたら。

そもそも一点。画家マルチェットに、フランスに渡った画家・藤田嗣治の視点を掛け合わせることを考えています。夢と憧れを抱きパリに渡った日本人アーティストの視点を加えることで、お客様にもまたちょっと違う視点が生まれると思っています。

高橋 井上さんと森山さんの共演は、2019年の全国共同制作オペラ「ドン・ジョヴァンニ」以来、おふたりとの現場はピリピリとくるぐらい緊張感があるものでした。またそういう日々がくると思うと、身が引き締まる思いです。

ミミは大好きな役。作中、詩人ロドルフォがミミを「彼女は僕の詩なんだ」と紹介します。彼に

とって自分がいかに大切な存在なのかわかり、そのときミミは生き甲斐を見つけたんだと思います。自分の存在意義を確かめるかのように生きていくミミを、森山さんとのようにつくっていくのか、とても楽しみです。

工藤 井上さんとは、ご自身のオペラ「A Way from Surrender」以降「降福からの道」でタロイ役として出演させていただいたのが出会い。若手の音楽家のことを考えてくださっていて、愛情のようなものをすごく感じました。マエストロにとって今回は人生をかけた最後のオペラだと思うので、僕もやっぱり人生をかけて、今後の人生の宝物になるような作品にしたいなと思っています。

森山さんの演出は初めてです。オペラは視覚も強い要素だと思うので、自分の持っている音楽を身体表現でどう伝えていくか、今回すごく大きな鍵になると思っています。

中川 歌を始めたばかりのころ、井上さんが指揮した全国共同制作オペラ「フィガロの結婚」の地方合唱団に参加しました。それから

井上さんとの共演のたびに一歩ずつ階段を上り、今回はムゼッタ役で参加させていただきます。
ムゼッタは最後まで生きて、ミミの一番の友だちとしてその死を見届けます。その死の悲しさを表現するのは生きてる人だと思いたすので、どのように表現するのか模索しながら、皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。

池内 全国共同制作オペラに参加するのも、井上さんと森山さんと一緒にするのも今回が初めてです。マルチェットはレパートリーとしてとても大事にしている役。藤田嗣治の視点を掛け合わせることに、はじめは戸惑いましたが、森山さんからコンセプトを説明いただいて今は本当に楽しんでいます。今日は僕なりに藤田をイメージした衣裳で臨みました。マルチェット/藤田役への熱意を感じ取っていただけたら。

今回さまざまな化学反応が起こると思っています。ボエームを知っている方は度肝を抜かれるでしょうし、初めての方も楽しんでいただけるものになると信じています。

※本公演の情報は裏表紙をご覧ください



撮影：Hidaki Tomoko

地域の魅力は、文化芸術がつくりだす 人が集まる、地域に向き合う、動く劇場へ

姜 2022年に県立劇場で上演したオペラ「夕鶴」をご覧になったとうかがいました。木村知事は演出の岡田利規さんと友人関係ということですが、

淹れてくれたコーヒーを飲みながら江津湖近くで1、2時間ほど話したのが最初です。「夕鶴」は演出の妙というか、民話や寓話の中に人間のズルさや人の心をジラッと見せる、いい意味での違和感が素晴らしい、心に残っています。それが熊本在住の演



熊本県立劇場館長

姜 尚中

熊本県知事

木村 敬



使っていない頭や心が
カチャッと動く瞬間に新しい自分を発見

木村 現代は自分の関心事ばかりに固定されていて、自分と社会が分断されることに危機を感じています。私は多様な価値観が混ざり合う多文化共生があつてこそ、地域の良さが生きるんじゃないかと思つています。文化芸術が身近にあつて、自分が知らない世界がそこにあつて、「おー」という新たな発見がある瞬間が良いのです。

姜 僕も「夕鶴」を観てびっくり返りました。最後につうが壁をぶち破るといふのは、岡田さんじゃないと考へつかないんじゃないですか。

木村 まさに今の時代における、固定による分断に対するアンチを感じて、違和感ではあるんだけどスカッとしたんですよ。
姜 ふだん触れないものや異質なものにチケット代を払つて観に行くことで、脳内革命みたいなのが起きるんじゃないかと。
木村 知らないことを知ること、自分の頭や心の使つてない部分がかチャッと動いて、今までにない自分を発見することが心地よかつたのかも知れません。ひとりひとり世界が違って多様なものがあるのに、自分の好きなものだけで凝り固まつてしまうことが気持ち悪いと感じ、それを打ち破ってくれるのが文化芸術だと思います。

改修もあつて、自分がやりたいと思うことがなかなかできなかった。「動く劇場」をテーマに今後も活動していきたいと考へています。知事は今後、文化芸術、観光、スポーツという、広い意味での文化活動について、何かお考へはありますか。
木村 ひとは、人吉・球磨地域の災害からの復旧復興です。人吉・球磨は人口減少とコロナの影響、二重の意味で厳しい状況でした。相良藩以来続く独特の文化や伝統がある地域で、自分たちの中に良い文化があることを発見するためにも、いろんな文化に触れてほしい。県劇が出向いて、復興に寄与できることがあれば、地元の人々が喜ぶと思います。
観光を例にしても、文化があつての観光です。その地の光を観る

という観光でも、光というのは光輝くものだけじゃなくて、光を有するものも含まれます。文化芸術つてその光を有するものなので、もっと大事にしていきたいですね。
姜 文化芸術は、館の空間の中に閉じ込めて鑑賞するものではなく、日常にあるものです。以前、永青文庫で確か日本の春画の展示がありましたよね。あれにはびっくりしました。
木村 あれは、すごかつたですね。とんがった見せ方で、ほんとうに多くの若い人が集まつていました。文化芸術では学芸員やアートマネジメントの技術を育てていかないといけないと思ひました。単に展示するだけでなく、それをよく理解して、今風の切り口で出すとどうなるか、とかですね。

姜 熊本の良さってたくさんあるのですが、ちょっと違うものに触れたときの化学反応みたいなものが起きたら、熊本はもっとよくなることを、演出家の岡田さんによつて感じさせられました。
木村 私も全国を渡り歩いた経験から、熊本の魅力はすごいものがあると思ひます。地元にいると気付かないことも、こういった体験で発見できると、熊本の魅力はもっと深まつていくと思ひます。

それぞれが思い描く
熊本と県劇のビジョン
姜 劇場というのは、日常からちよつと離れた空間で新たな発見をして、明日からの活力にする場でもあります。過去を振り返ると、故鈴木健二館長は、当時の細川護国公と一緒になつて熊本の伝承芸能をひとつひとつ発掘されました。私が館長になつて9年になりますが、熊本地震、コロナ、豪雨災害、劇場の



日常から離れた空間で新たな発見をする
それが、明日の活力になる



施設システム・チケットシステムのご案内

熊本県立劇場のホームページの改修にともない、施設利用・チケットの新システムを導入しました。変更点などの詳細をご紹介します。

施設システム

■利用者登録について

新システムでは、利用者登録をしていただくことで、マイページ機能を利用できるようになります。マイページから予約状況やお支払い状況などの履歴を確認でき、請求書や領収書のダウンロードも可能になります。2024年7月から登録の案内を順次発送いたしますので、届き次第登録をお願いします。



■施設空き状況について

新システム導入後は、リアルタイムで空き状況を確認できるようになりました。第1～3練習室およびリハーサル室については、従来はコンサートホールに催事が入っている場合、楽器音がホールに響く可能性があるため利用できないように表示していましたが、ダンスの練習などの音がでない利用については「お問合せ」の表示をし、利用内容によっては予約ができるようになります。



チケットシステム

■新システムでの運用開始

2024年4月25日より新システムでの販売を開始しました。旧システムに登録をされている方で、新システムをご利用いただく場合は、パスワードの再設定が必要になります。下記URLより新しいパスワードの設定をお願いいたします。

<https://p-ticket.jp/kengeki/login/forgot-password>

※登録内容に間違いがないかご確認ください。



■コンビニ発券について

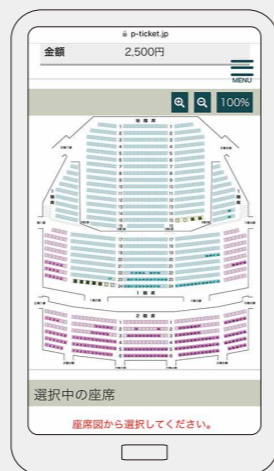
旧システムでは、クレジットカードによる決済後の発券、店頭での支払い及び発券はセブンイレブンのみでしたが、新たにファミリーマートでも発券等が可能になりました。

■購入画面について

購入画面の表示が見やすくなり、スマートフォンでの操作がしやすくなりました。座席画面は、ズーム調整が以前より簡単に操作できるようになりました。

■電話予約について

旧システムでは電話予約の場合、来館か代金引換での対応でしたが、新システム導入により、電話予約でもコンビニ発券ができるようになりました。



アジア諸国との市民レベルの交流は
劇場の役割(姜)
熊本をアジアの国々に開いて
一歩先行く地域にしたい(木村)

姜 知事のマニフェストの一番目にあった「県民の命と暮らしを守る」ですが、頻発する自然災害に対して、今後劇場の広いスペースをどう生かすか、そのあたりはどうお考えですか。
木村 災害時における文化芸術活動の支援もありますが、劇場という場をパブリックな空間として人々が集まる場としても考えています。例えば教会は集会所でもあるし、教会を聞く場で、音楽を披露する場でもある。そういうものだと思いますね。

姜 そういう点では多機能的な補助機能を持たなければいけない。また劇場の役割として、アジア諸国と熊本をつなげる「シアター・アジア」のようなものを立ち上げ、市民レベルの交流を行っていきたくて考えています。さまざまな文化芸術、伝統芸能も含めてです。
木村 大賛成です。九州は日本の西の端。アジアに開かれてこそ、熊本は首都圏と勝負できる。アジアの国に開き、熊本を一歩でも先に行かせたいと思っていますので、そこは同じ

構想だと思っています。
姜 劇場としては、県南にも注目しています。知事がお考えの県南の振興とともに、劇場が文化振興をお手伝いしていきたいと思っています。
木村 文化芸術を観る、触れる機会は、県南に限らず必要だと思っています。2022年に県劇で上演したONE PIECEと清和音楽の特別公演をリメイクしたものが、山都町の清和文楽館で定期上演され、新たなにぎわいを生んでいます。
姜 県劇がアウトリーチなどで県南に絡んでいく場合も、さまざまな仕組みやネットワークをつくっていきたくて考えています。長野の安曇野にいわさきちひろの美術館があるんですが、たとえアクセスが悪くてもそこに文化の拠点があると人が集まってくるわけです。ですから人吉・球磨でも、映画、美術、アニメなどを題材に結構人が集まるんじゃないかなという気がしています。

木村 人吉出身の漫画家、緑川ゆきさんの「夏目友人帳」という漫画があって、この作品のファンがわざわざ舞台となって
姜 県劇の来館者の多くが熊本市など中心部に近いところからの方です。アクセスの問題もありですが、県内の広い地域の方に来ていただくためにどうするのか。やはり私たちが動いていかないといけない、ということですね。
木村 動く劇場ですね。動いていった結果、県内の人たちが動かない劇場を訪れるようになるよう、これからも応援していきます。

熊本交響楽団 第114回 熊響 定期演奏会

2024年5月12日(日)
熊本県立劇場 コンサートホール



ブルックナーの大作に挑戦した

1965年11月に結成した「熊本交響楽団」。結成からもうすぐ60年を迎える市民オーケストラは、毎年春と秋の2回、定期演奏会を開いています。「熊響(くまきょう)」の愛称で親しまれるオーケストラには、音楽の専門家をはじめ、会社員、主婦、学生と、所属する顔ぶれはさまざまです。

新緑が生い茂る5月、114回を数える定期演奏会は熊本県立劇場コンサートホールで開催され、あいにくの雨模様にも関わらず、多くの聴衆が集まりました。今回のプログラムは、ゲストとして招いた元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ヴァイオラ奏者のマリオ・カルヴァン氏にちなんでウィーンに縁のある作曲家の楽曲で構成。オープニングでは、プログラムにはなかったリヒャルト・シュトラウスの「ウィーン・フィルハーモニーのためのファンファーレ」が演奏されるサプライズ演出も。次に演奏されたのは、モーツァルトの「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」。休憩をはさんだ後半には、ブルックナーの「交響曲第7番」。団員20年目の



ヴァイオリン中山文さんは「ブルックナーの曲は強弱が激しく、複雑で劇的な展開です。とても難しい曲でしたが、演奏を終えて達成感がありました」とコメント。今回のプログラムは、難しい曲へのチャレンジでもあったようです。

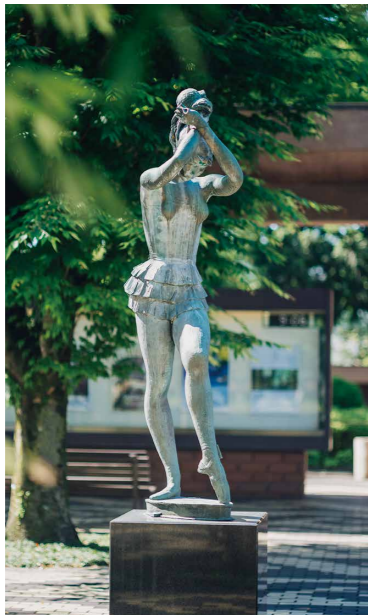
7月には後援会に向けたサロンコンサート、9月には八代市民音楽教室、そして11月の秋の定期演奏会が控えており、毎週2回の練習会に力が入っています。

指揮…松井慶太
ヴァイオラ独奏…マリオ・カルヴァン
ヴァイオリン独奏…黒葛原康子

県立劇場ギャラリー

踊り子 ヴェナンツォ・クロチェッティ作

県立劇場の正面玄関前プロムナードに立つ、彫刻「踊り子」。「踊り子」の写真を見ると「あっ、県劇だ!」と思いつく方も多いのではないでしょうか。この銅像の作者は、20世紀のイタリア具象彫刻を代表する巨匠の一人と呼ばれるヴェナンツォ・クロチェッティ(1913~2003)。クロチェッティは、幼くして両親と妹を亡くし、もう一人の妹とも生き別れ孤児として育った境遇から、作品には孤独な生い立ちと故郷への想いが色濃く投影されているといわれます。



Venanzo CROCETTI(1913~2003)
1972年ブロンズ 195×47.5×73cm
©SIAE Rome & SPDA Tokyo,2010

「踊り子」は、クロチェッティが59歳のときの作品です。パレリーナを題材としたこの作品は、舞台芸術公演のための専用ホールを備える県立劇場にまさにぴったり。屋外にあるため、季節や天気、時間帯によって表情が変わるのも、この作品の大きな魅力です。正面玄関で人々を迎える「踊り子」は、県立劇場のシンボリック存在として長く人々に愛されてきました。現在は劇場のSNS(Tabook・X)のアイコンとしても活躍中!ご来館の際は、ぜひ「踊り子」にも会いに来てくださいね。

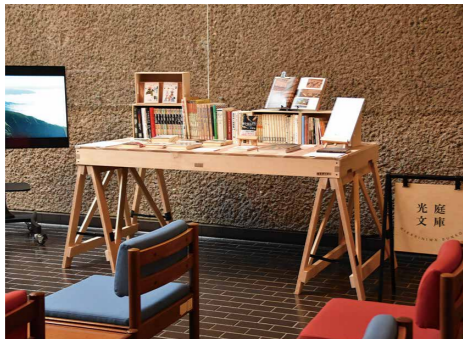
【県劇NEWS】 はじめまして、光庭文庫です

2024年3月、熊本県立劇場に図書閲覧コーナー「光庭(ひかり)にわ文庫」がオープンしました。

このコーナーの名前の由来になった「光庭」とは、採光を目的に設置された小さな庭のこと。県劇の東西を貫くモールにある、ガラスで覆われた吹き抜けの空間を指します。その横の休憩スペースに、音楽や演劇、ダンスなど、舞台芸術に関する書籍やキッズ向けの絵本を並び、劇場へお越しにいただいた皆さんが自由に手に取ってご覧いただけるようになりました。月によって少しずつラインナップを入れ替えている本は、劇場ならではの、あるアイテムを使ってディスプレイ。その答えは本と一緒に平置きしているパネルの中でご紹介しています。劇場外のあるかもしれない日もあるかもしれません。貸出しは行っておりませんので、本は持ち出さずに光庭文庫のスペースでお楽しみください。

時間帯や天気、また季節に

よって、明るかったり少し薄暗かったり、その時々光がこの光庭文庫の空間に差し込み、二度と同じ光になることはありません。ずっと眺めていたくなるようなこの場所が、コンサートが始まる前や練習室利用の合間、ときには何の用事がなくても、気軽に立ち寄り、心安らぐ空間になることを願って、光庭文庫は誕生しました。柔らかい自然光が差し込む空間でゆっくりと読書を楽しみながら、県劇での楽しい時間をお過ごしください。



舞台芸術に関する書籍を並べています

個性光る県内の公共ホールを紹介
天草市牛深総合センター(天草市)



青が映える天草市牛深総合センターの緞帳

1980年4月、牛深市(当時)に開館した天草市牛深総合センター。地域の宝である土地の文化を次代につなげ、残していくこと。そして、地域の人たちの生活に密着した施設であることをめざして、会館運営に取り組んでいます。

その言葉の通り、施設内には季節によって装飾が変わるウミガメの剥製、国立公園の海中を描いた緞帳、天草陶磁器の牛深ハイヤ踊りを描いたタイルなど、

いたるところに天草の宝が飾られています。催しものはあまくさ・おどりの会、アマチュアバンドフェス、カラオケ大会と、地域の人が参加するイベントが多く行われ、その舞台装飾は、すべて職員総出で手づくりされています。舞台音響・照明の機器操作車をあえて舞台のすぐ横に設置、出演者とコミュニケーションを取りやすいように工夫されているのもこの施設の特徴です。館長の西嶋さんは、「県内、県外の会館を見て回って、良いところはすぐに真似をする。利用される地域の方に近い存在でありたい」といつも工夫しています」と語ってくれました。



スタッフ手づくりの看板

県劇リコメンド
職員偏愛の定食屋さん
緑亭

今号からスタートした県劇職員のおすすめを紹介する「県劇リコメンド」。記念すべき初回に紹介するのは、一部の県劇職員が偏愛する定食屋さん「緑亭(りょくてい)」です。

緑亭はコの字型のカウンター20席ほどのお店。お昼ときは特にたくさんのお客さんで賑わいます。メニューは、有頭エビやホタテが入ったゴージャスな「名代大名ちゃんぼん」をはじめ、各種定食、井ぶり類など、驚きの50種超え。中でも職員一推しは、



おかずたっぷり「日替わりおまかせ弁当」

日替わりおまかせ弁当(750円)です。長方形のお重に8〜9種類のおかずがぎっしり詰まった、夢のお弁当。緑亭の有能スタッフさんは、連日通う職員が席についた瞬間にこのお弁当を出してくださいます。ありがたい!県劇への配達OKなのもまたありがたいところです。県劇での観劇前に、リハーサルの合間に、緑亭の定食でエネルギーチャージはいかがでしょう?



緑亭(りょくてい)
熊本市中央区大江5丁目12-12
県劇から徒歩10分程度
096-363-4820
営業時間/11:00~14:30
17:30~20:30
定休日/土曜、日曜、祝祭日

県劇職員が本音を綴るリレーコラム

施設サービスマン
黒木 正美(くろき まさみ)

クール・ストラッティン

皆さんは、CDを「ジャケ買い」したことはありませんか?

サブスク主流の現在、死語となりつつある「ジャケ買い」。20年程前はCD全盛期で、欲しいアルバムがある時はCDショップに行き購入していました。

ある日、店内のCDを見ていた時に目に飛び込んできたジャズのCD。それは、ソニー・クラシックの『クール・ストラッティン』でした。ニューヨークの街をクールに歩く女性の脚が印象的なジャケットデザイン。黒のパンプスとタイトスカートと履いた女性の脚をクローズアップしたモノクロのジャケットに一目惚れし、大人への扉を開ける気持ちで衝動的に「ジャケ買い」してしまいました。学生寮に戻った後、スピーカーから流れる音楽に胸を高鳴らせて聴いたことが懐かしいです。社会人になってから、初めて購入した車でのドラ

イブにCDを連れて行ったり、休日のBGMとして繰り返し聴いたりしてきました。この一枚のおかげでジャズへの興味が深くなり、音楽の世界が広がっていったような気がします。現在は、CD鑑賞だけでは満足できず、生の演奏を求めてジャズコンサートに出向く機会が年々増えていきます。

2024年12月1日(日)熊本県立劇場コンサートホールにて、ジャズピアニストの小曽根真さんが出演する「小曽根真ピアノソロ2024」が開催されます。ジャズだけではなく、クラシックの分野でも大活躍する小曽根さん。オーケストラやクラシック演奏家との共演も数多く重ね、多彩な表現力で聴衆を魅了し続けています。

ぜひ、12月は小曽根さんの美しくドラマティックな演奏で素敵な時間をお過ごしください。

THEATER MANNER 観劇マナー

劇場は「音楽の世界にとっぷり浸かりたい」「演劇をこころゆくまで楽しみたい」「子どもの成長を見届けたい」など、さまざまな目的で、さまざまな人が集まる場所です。みなさんが気持ち良く観劇できる環境を整えることが、劇場としての役割ですが、公演にいらっしゃるみなさんにも守っていただきたい、知っていただきたいマナーがあります。このコラムでは、観劇のマナーをご紹介します。

携帯電話・スマホは音や振動だけでなく「光」にもご注意ください

今ではほとんどのの方が所持している携帯電話、スマホにまつわるマナーです。基本的には公演中は電源をOFFにしてください。公演中のホール内は、電波が届きにくくなりますが、マナーモードや機内モードでもNGです。電源が入っている状態で、時計のアラームが鳴ることもあります。ホールに入った後、電源OFFを習慣づけましょう。また、音や振動については敏感になる人は多いと思いますが、**「光」**です。電源をONにした状態でスマホの画面を見ると、画面が明



るくなり、この光がまわりの方の迷惑になることがあります。携帯電話やスマホと同じように、スマートフォンの画面にも注意が必要です。

